

代理認証システム移行手続き（機関管理者用）（11/5 版）

- 背景
- 1. 認証連携IDサービスと代理認証システムを併用している機関
- 2. 代理認証システムのみ利用機関

背景

RADIUS IdP を機関で構築しない eduroam JP 加入機関に（エンドユーザ）に eduroam ID 発行機能を提供してきた代理認証システムは 2023 年度中に廃止されます。

eduroam アカウントの提供機能は [認証連携 ID サービス](#) の一部機能（以下、利用者 ID 発行）によって代替させていただきます。

なお、この移行に関して機関側の RADIUS IdP / SP の変更などは不要です。

対象機関が多いため代理認証システム・認証連携IDサービスの利用パターンごとに時期を分割して対応をお願いしています。

この利用者 ID 発行に必要な手続きを示します。

機関管理者のみなさまへ：

現在利用しているサービスによって対応が異なります。[eduroam JP申請システム](#) から自機関の利用サービスを確認したうえで対応ください。

現状の制約として(2023/11月現在) ID 発行数：1,000 まで、有効期間：12ヶ月までとなっています。[利用機関の要望をふまえて今年度中に改修予定です。](#)

1. [認証連携IDサービスと代理認証システムを併用している機関](#)：手続き・操作などは不要ですが認証連携 ID サービスが利用できることをご確認ください。
2. 代理認証システムのみ利用機関：11月中にご案内します。

1. 認証連携IDサービスと代理認証システムを併用している機関

[認証連携IDサービス](#) の利用範囲制限のないアカウント発行機能で代理認証システムと同等の機能をそのまま使いただけます。ただし、認証連携 ID サービスの設定が完了していない機関もあります。[利用ガイド](#) に従って設定を完了してください。

2. 代理認証システムのみ利用機関

詳細は 11 月中にご案内予定です。